『輝け雪』のまち　ぬまた町

みんなの議会

2026年11月
第107号



作って健康、飲んでも健康

P2　第２回定例会のおもな議案と補正予算
P4　町政を問う・６名（８件）が一般質問
P7　中学校体育館改修補正予算に関わる議論
P8　議員定数削減に関わる条例が可決
P10　決算特別委員会
P12　みんなの広場

沼田町議会　検索

令和8年 第3回 定例会

9月17日

令和８年第３回定例会が左記の日程で開催され、総務民教建設常任委員会所管事務調査報告をはじめ、町長の一般行政報告および教育長の教育行政報告の後、６名の議員が８件の一般質問を行いました。

上程されたおもな議案

以下の議案について、承認されました。

■沼田町太陽光発電事業と地域との共生に関する条例の制定
■沼田町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
■沼田町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
■沼田町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
■沼田町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
■沼田町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例
（採決に至る詳細は８ページに掲載）


ソーラーパネルを設置した住宅

一般会計の補正予算

令和８年度一般会計の予算総額に３億２６４５万円を追加し、予算の総額を７１億７５８７万円とする補正予算を承認しました。主なものは以下のようになります。

■令和８年熊本地震熊本県災害支援金　５０万円

■ふるさと納税関連費　１億円増

■町立沼田厚生クリニック損失助成金　６６６１万円

■恵比島揚水機場施設管理費　１５０万円

■農業総合対策費
麦類生産技術向上事業補助金　５７９万円

■沼田小学校排煙修繕工事　３９６万円

■ふるさとづくり基金指定寄附積立金　１億円増

■沼田中学校体育施設改修工事基本・実施設計業務委託料　２４８５万円
（採決に至る詳細は７ページに掲載）

■体育施設管理費
地域滞在型スポーツ人材育成拠点整備事業
設計委託料　９１３万円
（採決に至る詳細は７ページに掲載）

特別会計の補正予算

以下の補正予算を承認しました。

■水道事業会計
国道２７５号線共成地区配水管移設実施設計業務委託料　**４４２万円**
（防雪柵設置に伴う水道管の移設）

■下水道事業会計
下水道事業に関わる国の補助金減額に伴う企業債への振替　**３６００万円**

人事案件

次の人事案件に同意しました。

■教育委員会委員の任命について　青木健治（あおきけんじ）氏（再任）

意見書

下記の意見書提出を求める陳情を採択しました。

■国土強靭化に資する社会資本整備等に関する意見書
■軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書
■備蓄米水準の早期回復を求め生食用ジャガイモの輸入解禁を行わないことを求める意見書



町長、教育長への一般質問

食料システム法の活用と持続可能な農業



鵜野　範之　議員

関係機関と連携し持続可能なスタイル構築を目指す



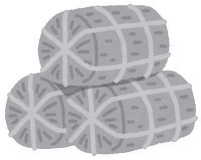
横山　茂　町長

鵜野

国が進めている食料システム法では米の生産コスト指標は２０，５３５円と示されており、現在の米価とは大きな差がある。農業経営において再生産困難な状態か町の認識を伺う。

農業は町の基幹産業であり、その持続性確保は行政の基本的責務であると考える。４月に制定された食料システム法を活用し、価格協議や取引環境の改善を町が支援できないかを伺う。





町長

米をめぐる情勢は非常に厳しい局面にあります。農林水産省の統計農業物価指数では肥料・燃油・資材が令和２年比で５０％に迫る増加であり、農機価格の上昇も含め、再生産と地域農業の持続にとって憂慮すべき事態であると認識しています。収入確保と併せて、初冬直播き栽培実証事業を実施するなど生産コスト削減策も重要と考えます。

食料システム法については、誠実な協議がなされない場合に政府機関による指導、助言、勧告、企業名公表等の措置も行われるとあります。町単独で講じられる支援策には限界はあるが、関係者と連携し、国に対して持続可能な農業スタイルを構築するよう要請を進めて行きたい。

札幌・留萌方面につながる交通体系整備を



長野　時敏　議員

現行の深川経由便を再開するのは難しい



横山　茂　町長

長野

ＪＲの利用方法への不安の声がある中、運転手不足と利用者減少を理由に、北海道中央バスの深川市立病院を経由する高速るもい号の便が９月末で廃止されます。高齢者、免許返納者、通院・買い物利用者、札幌・留萌方面へ移動する住民への影響が懸念されることに対し、沼田町単独ではなく留萌市・北空知の沿線自治体が共同で協議会を設け、高規格道路、沼田インターチェンジ、秩父別のパーキングエリア、深川西インターチェンジ等を活用した新たなバス路線として仮称「新るもい号」を検討してはどうか。

町長

高速るもい号は日常的な生活路線バスの位置付けが無く、国の補助対象では無いことに加え、沿線自治体が赤字補填をしておらず、バス事業者が全額を負担して運行してきた経過にあります。

令和７年度半期の赤字は約３，９５０万円、平均利用者数は一便あたり１４．４人で、採算ラインの２６．１人を約１２人下回っているとお聞きしていて、仮に自治体が負担する場合も国の交付税措置等の対象とならず、一般財源での継続負担となり、現行の深川経由便を維持・再開することは難しいと考えます。

長野議員のその他の質問

問　沼田っ子が輝くスクールカウンセリング体制を

答　三浦教育長

必要な場合はカウンセラーにつなげていく



伊藤　淳　議員

沼田・深川間の生活道路の安全対策を

防雪柵設置に向け引き続き要請活動を行う



横山　茂　町長

伊藤

ＪＲ留萌本線の廃止に伴い本年４月からバスが主要公共交通となり、バス転換後の道路の安全確保、特に冬季対策が懸念される。除雪体制、防雪柵などによって安定運行を確保すべきだと考える。

沼田・深川間を生活道路として使う学生、会社員、通院者等に加え、救急車など緊急車両が吹雪時にも通行できる道路の環境整備が必要。

関係市町の会議体において、防雪柵等への対応で地域住民の理解が得られているのか、また路線安全対策を調査・検証した上で国や道路管理者へ働きかける必要があるのではないか。



新たに運行を開始した町営バス「きたそライナー号」

町長

札幌建設管理部に対して令和６年度から防雪柵設置を要望しており令和７年度には調査が開始された一方で、当該自治体では防雪柵により、ほ場側に雪が多く堆積し融雪の遅れや農作業への影響を懸念する住民から、設置反対の要望が提出された経過にあります。

北海道は令和８年度以降、視認性確保のため自発光式スノーポールの設置を開始し、防雪柵についても一部仮設置による冬季の状況確認を試みましたが、沿線地域の理解を得ることは難しく、設置高を低くする対応や夜間除雪対策、自発光式の誘導標等で対応している状況です。最終目標は防雪柵設置であり、引き続き要望活動を行いたい。



上野　敏夫　議員

安定した農業経営のために必要なことは

倉庫や施設整備はＪＡと協議したい



横山　茂　町長

上野

令和８年産北海道米の概算金が「ななつぼし」１７，０００円、「ゆめぴりか」１８，０００円と示され、前年価格から約４０％の大幅引下げとなったことで農家に動揺が広がっている。販売農家戸数が平成２９年の１６０戸から令和８年には１３０戸となり、１０年間で３０戸減少したことの認識を伺う。

建設から約３０年が経過したスノークールライスファクトリーについては、１日当たりの受入量が７５０トンから７００トンへ減少したため、農家の保管スペース確保が懸念されている。

米施設利用料も値上げの方向であり、農家には利用料の補填や固定資産税の減免を支援出来ないか。町として、倉庫の増設、施設労働力の確保を支援出来ないか。

町長

離農される要因は様々ですが農業者減少により遊休農地の発生や地域コミュニティの維持困難が生じる可能性は認識しています。現在沼田町では遊休農地の発生はありませんが、今後もアグリファームを活用し、新規を含めた就農者確保に力を入れて行きたいと思います。

ＪＡからは、施設の人員確保に苦慮していることを受け、組合員の同意のもと１日の荷受けを減量したと聞いています。改修計画にも大きな投資が予想されていますので、詳細な検討を含め一体的な対応が必要と考えます。



スノークールライスファクトリー



地域の防災力を高めるには

篠原　暁　議員



自主防災組織設置に向け注力する

横山　茂　町長

篠原

全国で深刻な自然災害が相次いでいて、避難所の劣悪な環境やプライバシー保護の欠如が問題視されている。大規模災害時における食料、簡易ベッド、プライバシー確保用テント等の備蓄量と、想定避難者が何日間滞在できる量を確保しているか伺う。

なかなか進んでいない防災自主防災組織について、町ではどのように要因分析を行っているか、また今後どのような支援を進めていくのか伺う。

町長

現状の備蓄品については、食料品ではアルファ米５６８食、保存食１４７食、エネルギー補給食品は１００人分です。その他、飲料水、粉ミルク、衛生用品、段ボールベッド、パーティションなども含めて備蓄をしています。今年度の予算においても、ベッドや食料品も増やす予定でありますが、家庭内備蓄・事業所等との協力、いわゆる自助、共助、公助の観点から、地域の防災力の向上につなげていただきたいと考えています。

自主防災組織は、大規模災害時の、避難誘導、救出・救護、安否確認等を担う組織として不可欠であり、町は町内会への助言を強化し、設置に向けた対応に力を入れて行きます。

篠原議員のその他の質問

問　就学旅行費の公費負担を

答　三浦教育長

保護者負担のさらなる軽減は必要と考える



長期化している物価・エネルギー高騰対策を

大沼　恒雄　議員



具体的な支援内容は検討したい

横山　茂　町長

大沼

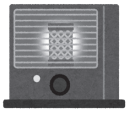
長期化する物価・エネルギー価格の上昇と、農業生産コストの増加が町民生活および農家経営に与える影響を踏まえ、特に１２月に向けた町の支援策と財源の考え方を伺う。

灯油費、生活費、更には農業者の米生産コストの負担が急迫しているので、国の重点支援交付金に加え、町の一般財源も用いた支援策を講じるべきではないか。町がコロナ禍以降、プレミアム商品券事業などを通じて物価高騰に対応してきたことは評価するが、今回は灯油助成、生活支援、農家の直接支援・営農支援に加え、商業者支援も必要だと考える。そのうえで、国の重点支援交付金をどのように活用するのか伺う。

町長

これまでも物価高騰対策を適宜講じて来ましたが、依然として住民の生活が大変なことは認識しています。

国の動きや北海道の支援策を踏まえて対策を検討する考えであり、町民向けの対応については、国の重点支援交付金を主な財源とし、灯油代支援も含めて検討したい。しかし国の交付金だけでは不足する場合もあり得るので、北海道の地域づくり総合交付金など、活用可能な補助メニューも含めて整理した上で対策を検討したい。必要な場合には一般財源を取り入れて対応することも検討していきたい。





一般会計補正予算の質疑

■沼田中学校体育施設改修工事　基本・実施設計業務委託料　２４８５万円

質　問　**久保議員**

今回の補正予算に関しては、町民体育館は沼田中学校の施設と併用に特化されすぎているような予算化ではないかと非常に違和感を感じる。中学校体育館の改修が新町民体育館へのすり替えだとすれば、これは看過できない予算化だと思うがいかがか。

答　弁　**三浦教育長**

中学校体育館と町民体育館の状態は、継続して使っていく状況が難しいということを踏まえた中で、今回中学校の体育館も活用しながら一般町民も使っていくという形で報告させていただきました。あくまでも中学校の体育館を町民体育館へすり替えるというイメージではなくて、検討委員会からも子どもたちが利用する中学校体育館の環境整備の優先度は高いとの意見もあり、町民も利用できる体育館の機能を併せ持った改修が望ましいとの意見を踏まえて判断いたしました。

わくわくアリーナに関しましては、スポーツだけでなく既存施設の統廃合と再編、そして新しい機能についても引き続き検討しながら進めていきたいと考えております。

■地域滞在型スポーツ人材育成拠点整備事業（卓球留学寄宿舎整備）設計委託料　９１３万円

質　問　**久保議員**

卓球留学の理念は理解するが、受け入れ生徒を確保する前に寄宿舎を最初に建設するというのは予算執行の手順に問題があると思うがいかがか。

答　弁　**赤井教育課長**

指導者については、石田卓球クラブと入念に打ち合わせを行い、ある程度条件が整ってまいりました。また、アンケートを実施していただき、北海道、東北の子ども達の一定のニーズがあるという調査結果もあり、沼田町の教育活動の一環として、そして町の交流人口、中学生の人数の確保に努めてまいりたいと考えています。

討論

反対意見

久保議員　今回の 設計委託料約２，０００万は将来のわくわくアリーナなり、農産加工場やスノクールライスファクトリーなり、もっと効果的なものにぜひ使っていただきたいと考えますので反対します。

長野議員　石田卓球クラブは素晴らしいと感じ、石田監督のカリスマ性のもとで支えられていると思いますが、他の指導者で進めていくには不安に思うので反対します。

賛成意見

鵜野議員　卓球留学の予定しているスケジュールからいうと期間が迫っていますし、これから様々な意見を参考に進めていただきたいと思いますので賛成します。



昭和４８年に建設された中学校体育館

卓球留学とは

有名卓球クラブの受け入れを入口とした教育、人材育成、生徒数確保、関係人口の創出を目的とした事業で、今回の補正予算では来年度以降に生徒を受け入れるための寄宿舎を建設する設計の予算です。

沼田町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例についての質疑

質　問　**篠原議員**

議会改革調査特別委員会の中で、定数の議論を始める発端は議員のなり手不足の解消であり、解決策としての議論が十分ではなかったような印象を持っている。どのように議員のなり手不足の解決につながっていくのかということをお聞きしたい。議員定数を１０名から９名にした理由と議会カフェなどの町民の意見を聞く場で議員の定数を減らしたほうが良いという意見がどの程度あったのかをお聞きしたい。

答　弁　**畑地議員（議会改革調査特別委員会委員長）**

定数の議論は、特別委員会の中で早めに行いたいという意見もあり、令和６年９月から議論を重ねた結果だと思っております。議員のなり手不足の対策の一つとしては間違いではないですが、そこだけの一点でスタートしたということではありません。町民からの意見については、４月に議会報告会を行い議員定数の削減を説明し、ある程度承認をいただいたものと考えています。議員定数の削減については、特別委員会において採決をさせていただいたもので、その点を踏まえて今回の条例提案になりました。

討論

反対意見

篠原議員　１つ減ることによって、それだけ町民の声が届かなくなるということもあります。最低限現状維持をするということを望みますので、定数 １減には反対をいたします。

久保議員　沼田町議会がまず取り組むべき優先順位は、議員を減らすことではなく、町民や役場の職員の皆さんや町長にも頼らない議会が望ましく、それらの理念の提示だと思います。それが議会改革であり、この３年半、足踏みをして定数の削減に時間を費やしたことに、役場の職員、町民に対して私自身も恥じているところです。 以上の理由により、今回の議案に反対します。

大沼議員　全国の地方自治体では、これまで行財政改革の一環として、住民感情や財政難に応える形で定数削減が進められ、定数割れやなり手不足のさらなる深刻化という負のスパイラルを引き起こしていると言われています。 単に定数の枠を狭めることはむしろ出馬へのハードルを上げ、多様な民意を拾い上げる議会の機能を縮小させるリスクの方がはるかに大きいと言えるので本条例案に反対します。

賛成意見

畑地議員　沼田町議会もどれだけ議会にコストをかけるのか、これは議会が自信を持って活動を見せ、その分の活動に対する対価をいただいているということを示すためにも、定数が減っても議会のパフォーマンスは落ちないと確信をしておりますので賛成します。

長野議員　自ら身を切る姿勢を示す必要性を感じ、そして議員や議会の改革につなげるために９人が妥当と考え賛成します。

採決の結果	畑地議員	篠原議員	鵜野議員	久保議員	三浦議員	伊藤議員	長野議員	大沼議員	上野議員	
一般会計補正予算	○	○	○	●	○	○	●	○	●	可決
議員定数条例	○	●	○	●	○	○	○	●	○	可決

賛成＝○　　反対＝●

常任委員会の活動

総務民教建設常任委員会所管事務調査報告

本委員会では、平和の尊さやその意識について重層的な審議を行い、町民へのアンケートやカフェでの対話を通じて平和についての意識や課題の把握に努めてきました。その結果町民の皆様が日常的に平和な暮らしを強く求めていることが明らかとなり、平和の理念を真に地域社会に根付かせるためには、地域・学校・家庭の一体となった「実践」の段階へ踏み出すことが不可欠であるとの認識に至りました。

行政が主体となって町民へ働きかけ、具体的な呼びかけや環境づくりの推進を強く求め、下記の意見を付します。

⑴　行政主導による町民への積極的な周知と啓発運動の強化

行政が主体となって平和の尊さや町民が取り組める平和活動についての情報を広く発信し、町民全体の平和意識を高める呼びかけを推進することを望みます。

⑵　誰もが参加しやすい平和学習と体験機会の創出

子どもから高齢者まで幅広い世代の町民が気軽に参加・体験できる平和学習やイベント等を企画し実施することを望みます。

議会の動向

●１０月２０日　産業福祉常任委員会
●１０月２６日　総務民教建設常任委員会視察
～２７日　自治体のデジタル化の状況を視察
●１１月　４日　中学生議会
中学生が議場に立ち町長へ一般質問をします
●１１月１７日　産業福祉常任委員会視察
～１８日　障がい者就労関連施設への視察
●１１月中旬　議会改革調査特別委員会
●１２月中旬（予定）第４回定例会

第1回議会モニター会議

１０月１９日、３名の議会モニターの参加をいただき第１回議会モニター会議を行いました。今回は議員を含め１３名を２班に分け意見交換を行いました。

議員報酬については、特別職などの報酬を検討する報酬審議会の設置を報告しました。また、議員のなり手不足解消にも報酬金額だけでなく、議会の見える化など若い方や会社員、女性も議員に出馬しやすい環境整備が必要なのではという意見も伺いました。

中学校体育館と町民体育館の現状とわくわくアリーナ検討委員会の答申も含め、卓球留学の考え方も説明させていただきました。モニターさんからは中学校には学校教育用の体育館が必要であり、町民利用の施設と完全に分離して共有できるのか、期間も含めて慎重に検討してほしいとの意見がありました。

また、除雪業者の減少、米価下落に伴う農業問題についても提起されました。





決算特別委員会



令和７年度予算の執行状況と事業の実施内容を審査する決算特別委員会を１０月１４、１５、１６日の３日間で開催し、一般会計、特別会計、水道事業会計、下水道事業会計の各歳入歳出決算の審査を行いました。

多くの質疑があった中から、各議員の代表的な質疑を以下に取り上げます。

今回は畑地（はたち）　誉（ほまれ）委員長、篠原（しのはら）　暁（さとし）副委員長で担当しました

各課への主な質疑

総務財政課

三浦　**デジタル専門人材派遣事業で、人財確保に向けた取り組みは。**

答弁　全額国の補助で行う予定だったが企業側の人材不足で派遣に至らなかった。

農業推進課

上野　**稲の初冬撒き実証事業は、低コストでの規模拡大策として今後も継続的に実施していくのか。**

答弁　低コスト化は重要な事業。専門機関からの助言で収量も上がってきている。他県では実用化一歩手前まで来ている。

保健福祉課

久保　**沼田厚生クリニックが担う地域医療体制は整ったのか。**

答弁　入院病床廃止から１０年経過したが、クリニックとして血液検査やＣＴ検査ができるのは近隣では沼田だけ。

教　育　課

伊藤　**家庭教育や中学生ボランティアの活動はどのようになっているか。**

答弁　家庭教育懇談会やＰＴＡとの懇談を行っている。ボランティアは生徒数が減り、実施が困難になっている。

住民生活課

篠原　**今後も生ゴミの減量対策として処理機とコンポストの普及を考えていくのか。**

答弁　コンポストは事業提案後に熊の出没などがあり、利用促進は検討が必要と考える。

建　設　課

鵜野　**水道会計で、企業団からの受水金額の上昇の状況と沼田町への影響は。**

答弁　企業団の水道料金は１５％程度上がっているが、基本料を下げて沼田町への相対の影響を低く抑えている。

産業創出課

鵜野　**クラフトビールの普及促進事業で、補助金の支払先はどのようになっていたのか。**

答弁　高額になるクラフトビールを町内で購入する際に、補助金で販売額を抑えたほか、販促用品、広告宣伝費などに使用した。

和　風　園

大沼　**老人措置費の率が上がらないと赤字が続くことにならないか。**

答弁　措置費は令和６年度の改定分を物価高騰が上回ってしまった。

令和7年度決算を全会一致で認定

決算特別委員会は、３日間の審議により下記の意見を付して令和７年度決算を認定しました。

■令和７年度　沼田町一般会計決算額

歳入総額	76億3321万円（71億9954万円）
歳出総額	75億0719万円（70億8303万円）
収支差額	1億2602万円（１億1651万円）
基金残高	46億2735万円（46億3260万円）

（　　）は前年度決算額



答弁する横山（よこやま）　茂（しげる）町長

町長への総括質疑

●食の魅力発信拠点事業を町長はどのように総括するのか（産業創出課）

久保　**沼田町ビアキッチンは大きな挑戦だったが、当初委託したコンサルタントが運営する店舗とはキッチン形態が異なり、メニューも限定的だった。食の発信拠点としてふさわしかったのか。**

町長　沼田町の食材を使った料理の提供を目指してきました。ビアキッチンに適したメニューを独自に開発しており、投資に誤りは無かったと思っています。



ビアキッチンのカウンター

●ＧＸ専門人材の活用はどこまで進んだのか（住民生活課）

久保　**専門人材がいる間に２０５０年のゼロカーボンに向けて取り組んだのがゴミの減量しか見えてこない。森林を所有する会社との協働は無かったのか。**

町長　森林を所有する会社の社長が来町され、町との協働事業を考えたいとの話しをいただいています。ほろしん温泉周辺には太陽光パネルの設置による運用が行われています。

●農産加工場の処理力とトマト作付面積の拡大に向けた方策は（農業推進課）

久保　**現在の加工場の年間トマト処理能力は３５０ｔだが、これを目標としている１０００ｔに上げるためには３ｈａの作付面積が必要と聞いている。処理量を増やすための方策はあったのか。**

町長　第１目標として１０００ｔを掲げ、徐々に多くしたいとスタートしました。現状の手摘みでは現実的ではなく、機械収穫を本格化させる必要があります。一方で手摘みによる家庭菜園での栽培協力も継続し、更なる収量拡大を目指していきます。

決算への意見

（１）ゼロカーボン達成に向けての更なる前進を

イベント時や家庭ゴミの分別などを継続するとともに、町が宣言した2050年に向けてのゼロカーボンを目標に具体的な中長期計画の実行を望みます。

（２）食の魅力発信で沼田町の知名度アップを

「沼田町ＢＥＥＲ　ＫＩＴＣＨＥＮ」は、沼田町への誘客の効果的な窓口と考えます。新たなメニュー開発も進め、沼田町産の食材の魅力が存分に伝わるよう望みます。

2026年11月11日発行　発行者　沼田町議会　〒078-2202　北海道雨竜郡沼田町　TEL0164-35-2117

みんなの広場

トマト収穫グループの皆さん



沼田町の特産品となっているトマトジュースの原料は、農家だけでなく家庭菜園でも栽培されています。その中でも大規模に行っているグループを訪問しました。この日は収穫を終えた畑の片付け作業に参加していた小川睦子（おがわむつこ）さん、亘美代子（わたりみよこ）さん、吉田慶子（よしだけいこ）さん、澤田信子（さわだのぶこ）さん、清水カツ子（しみずこ）さん、武知一子（たけちかずこ）さんにインタビューをしました。

Q：このグループを始めたきっかけは？

A：元は秋桜（コスモス）会というサークルで、トマトの作業をしている会員は８人います。代表の小川さんが畑をやっていたので、他のメンバーも集まって始めました。

Q：トマトを育てて楽しかったことは？

A：大変なことも多いけれど、畑起こしや施肥、マルチシートかけなどの作業は役場がやってくれるので助かります。畑仕事は健康増進に役立つので楽しいです。

Q：今年のトマトのできは？

A：連作の影響で以前より収穫が減ったように感じました。

Q：トマトを売った収益はどんなことに使いますか？

A：最後にみんなでほろしん温泉に１泊して慰労会をするので、その時に使います。

Q：来年も続けたいですか？

A：続けたいとは思いますが、みんな高齢者なので身体と相談して決めたいと思います。

Q：町民の皆さんにメッセージを

A：ぜひトマトジュースをたくさん飲んでください。でも、そのためにはもう少し安くなってほしいですね。



退任議員との交流

１０月５日に、退任議員と現職との交流を兼ねたパークゴルフ大会を行いました。今回は個人賞で現職が１位に入ったものの、退任議員の層の厚さの前に、残念ながら団体優勝には及びませんでした。この日は退任議員親睦会５０周年の祝賀会も行われ、歴代町長のご臨席を賜りました。



優勝チーム　退任議員会

個　人　賞　１位　伊藤（いとう）　淳（じゅん）議員、２位　津川（つがわ）　均（ひとし）さん、３位　杉本（すぎもと）　邦雄（くにお）さん

あとがき

今年の稲の収穫作業も順調に進み、美味しい新米をいただける季節となりました。

一方で、米の買い取り価格が下がり、農家には不安な秋になりました。農業は沼田町の基幹産業です。農業を守ることは、議会にとっても重要なテーマになります。

この度の町議会において、市場に余った米を備蓄米として買い戻すための意見書を政府に提出しました。

農家が安心して米を作ることができ、消費者が美味しい米を適切な価格で購入することができる仕組みの実現を。新米を食べながら願ったことです。

広報特別委員
篠原　暁
三浦実希
畑地　誉
伊藤　淳